



認知症理解とケア 専門家集め研究会

群馬大教授 山口晴保さん（54）

認知症への理解を進め、より良い治療やケアのやり方を広めようと昨年12月、医師や看護師、社会福祉士、介護支援専門員ら多職種の専門家を集めた研究会「ぐんま認知症アカデミー」を設立

した。リハビリで症状の進行を遅らせたり、機能を回復したりできるという研究報告が相次ぐなか、「良いケアとは、その人の能力をいかに引き出すか。その大切さを知つてほしい」と話す。

門間ら多職種の専門家を集めた研究会「ぐんま認知症アカデミー」を設立した。リハビリで症状の進行を遅らせたり、機能を回復したりできるとい

うかわる研究を続ける一方、地域でのリハビリ支援のネットワークづくりにもかかわってきた。

これまで医療現場では認知症の原因への関心が高い一方、治療では徘徊などの行動を抑えるために副作用のある薬を使いがちだったという。アルツハイマー病や脳血管性認知症など、原因によって対処法は変わるのに、ケアの現場では必ずしも意識されていなかった。

研究会はその職種の壁を